

市政を問う 一般質問



時田裕之 (新風会)



新倉哲郎 (無所属)



横田卓也 (市民クラブ)



大河原吉明 (新風会)

質問 アFTERコロナにおける高崎だるま市開催の成果は、

質問 新型コロナウイルスワクチンにおける、本市での予防接種健康被害救済制度の申請件数と、審査結果の状況は。

質問 消費者教育の総合的・一体的な推進や、市民の消費生活の安定・向上のため、消費者教育推進計画を策定すべきと考えるが、本市の考えは。

質問 農業の担い手不足等により年々難しくなっている農業基盤の維持、この中の一つ、地域の水利組合が活動を継続していくための方策は。

回答 高崎だるま市は、徹底した感染防止対策を講じながら、一度も中止することなく開催してきた。本年は行動制限緩和の影響や快晴に恵まれたこともあり、コロナ禍前を上回る過去最高の来場者数で、工夫を凝らしてイベントを継続してきた効果や、楽しみにしている多くの人の存在を実感できたイベントとなった。

回答 本市では、これまで32件を国に進達し、令和6年4月末時点で認定18件、否認4件、審査結果待ち10件となっており、このうち死亡に関する案件は1件認定されている。

回答 消費者教育推進計画の策定は、都道府県および市町村の努力義務となっている。本市では計画策定の予定はないが、今後も市民の消費生活の安定・向上に寄与する事業を推進していく。

回答 令和4年5月の農業経営基盤強化促進法等の改正により、市町村は令和7年3月までに、耕作者だけでなく地域住民を含めた幅広い関係者が一体となって協議する場を設け、その結果を踏まえて地域農業の在り方や将来の農地利用の姿を明確にした地域計画を策定することになっている。この協議の場において、水路の土砂上げや草刈り、水門の管理など、農地を活用していく上で大変重要となる日常的な維持管理などについても話し合うことができる。

質問 高崎まつりを昨年同様8月第4週の土日に開催することに決定した経緯は。

質問 今後の健康被害などを想定すると、接種記録の恒久的な保存が重要と考えるが、本市における接種記録の保存方法と保存期間は。

質問 カスタマーハラスメントを防止するための本市における今後の取り組みは。

質問 本市における再犯防止の取り組みに対する支援と、関係機関との連携状況は。

回答 昨年、猛暑や学校の夏休み期間に配慮して8月第4週に開催したことで、周辺都市の祭りとも重ならず、過去最高の人出となる大盛況の祭りとなった。また、参加しやすい日程で猛暑のリスクも回避できたなど、好意的な意見も多かったことから、実行委員会において協議し決定した。

回答 本市での定期予防接種の記録は、基幹システムに登録して保存するとともに、紙の予診票を保存している。新型コロナウイルスワクチンの接種記録については、それに加えて紙の予診票をデジタル化し、データで保存している。また、保存期間については、法令において5年間保存しなければならないと規定されている。

回答 カスタマーハラスメントへの対策が民間企業においても急務となる中、これを防止するためには消費者教育の推進が重要と認識している。今後は、出前講座に寸劇やクイズを織り交ぜるなど、理解しやすい工夫を行うとともに、本市のラインやユーチューブなどのSNSも活用し、消費者教育に努めていく。

回答 本市では、高崎保護区保護司会や高崎地区更生保護女性会に対し、活動費の一部を助成するなどの支援を行っている。保護司や保護観察官による更生支援活動は、再犯率の低下に大きく寄与していると考えられているため、今後も関係機関等と連携し、再犯防止体制の強化を図っていく。



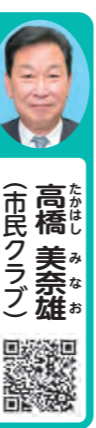
大竹隆一 (新風会)



丸山 寛 (公明党)



中島輝男 (市民クラブ)



高橋美奈雄 (市民クラブ)

質問 高崎駅東口栄町地区市街地再開発事業の現段階での進捗状況と今後の予定は。

質問 ウォーキングを取り入れた健康に関する事業の実施状況は。

質問 本市でフェーズフリー教育を取り入れる考えは。

質問 本市における再犯防止の取り組みに対する支援と、関係機関との連携状況は。

回答 本年度当初から基本設計を開始し、本年度中の事業認可申請と法定再開発組合の設立に向けて事業を進めている。組合設立後の令和7年度から実施設計や権利変換計画の作成を行い、権利者の移転、解体工事、本体工事へと進む。詳細なスケジュールは、基本設計が終了し、事業認可申請を行う段階で決まってくる。

回答 毎年開催している初心者向けウォーキング教室では、室内指導に加え、市内の公園等を会場とし、自然に親しみながら楽しく継続できる健康づくり体験を盛り込んでいる。

回答 フェーズフリー教育は、幼稚園や学校の教育活動の中で命の大切さや防災意識を身に付けさせるなど、今後必要となる取り組みであると認識している。現在学校では、台風や地震などの自然災害や、自然災害から人々を守る活動についての学習など、各教科の中で防災・安全に関わる内容を扱っている。今後も、先進的な事例を注視しながら研究していきたい。

回答 本市では、高崎保護区保護司会や高崎地区更生保護女性会に対し、活動費の一部を助成するなどの支援を行っている。保護司や保護観察官による更生支援活動は、再犯率の低下に大きく寄与していると考えられているため、今後も関係機関等と連携し、再犯防止体制の強化を図っていく。

質問 再開発ビルと駐車場棟は各階の高さが違うが、接続することは可能なのか。

質問 健康増進と回遊性の向上を図る取り組みとして、歩数や散策コースの長さに応じたポイントを付与し、獲得したポイント例えば学校図書購入などの社会貢献に活用できるような、本市独自のアプリを導入してはどうか。

質問 高崎ブランド・シティプロモーション事業で制作したドラマのように、本市を舞台としたアニメ制作の考えは。

質問 街中の回遊性を高めるため、高崎駅前やペDESTリアンデッキなどでの交通案内のデジタル化が必要と考えるが、本市の考えは。

回答 再開発ビル全体の利便性の向上のため、複合棟の2階と駐車場棟の3階を接続する計画としているが、各階の高さの違いやフロアごとの所有者、用途の違いなどがあり、過剰なセキュリティが必要となること等の課題があることから、慎重に検討したい。

回答 近年、ウォーキングによる日々の健康づくりに対し、スマホアプリを活用してポイントや特典を付与する企業・自治体が増えており、県でも実施している。これらの事例を注視しつつ、健康増進や回遊性の向上にどれほど寄与するかなど、研究していきたい。

回答 アニメ制作は、本市の魅力を発信する手段の一つになる可能性があるが、認識しているが、PRの対象がアニメファンに限定されることも想定されるため、費用対効果も含めて研究していきたい。

回答 交通案内設備のデジタル化は、導入や維持管理に膨大な費用がかかることが最大の課題と認識している。観光面での利便性や費用対効果を的確に捉えるとともに、担当部局と連携しながら、より良い方式を研究していきたい。

平常時や災害時などの局面にかかわらず適切な生活の質を確保しようとする「フェーズフリー」の概念を学校教育に取り入れること。

●フェーズフリー教育